

幼保連携型認定こども園 学校法人恵光学園 ポケット幼稚園
令和5年度 自己評価結果報告書

1. 園の教育目標

- ・思いやる子に育てる。
- ・能く考える子に育てる。
- ・能く行動する子に育てる。
- ・素直な子に育てる。

2. 本年度、重点的に取り組むべき目標や計画

幼保連携型認定こども園として4年目を迎えた。1号認定子どもは全園児の20パーセントを下回り、3歳未満児・長時間利用の子どもが増えている現状が職員の負担増になっている。しかし、職員数の増加により融通が利くようになり、働き方の改革が少しずつ実現できてきた。これからは、多人数の職員を適切に配置することが求められる。その中でいかに教育・保育の質を維持していくか労務関係の改善をしながら活動内容や行事の在り方を考える。

◎今年度もが新型コロナウイルス感染症やインフルエンザ感染症に本人や家族が感染し、長期に休むことがあったが、職員一人一人が職務をよく全うして一定の保育の質の維持はできた。今年度も職員の負担を減らし保育に充てられる時間の確保をするために保育支援員を雇用した。処遇改善の制度Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを使い職員の給与面における年収が多少改善されているが十分とはいえない。ただし、学園の経営は人件費比率が高く赤字経営となっている。

・労務関係のタイムカードによる就労時間管理によって、残業時間を極力少なくして家庭生活や自分時間を持てるように配慮した。また、休憩時間を30分～45分程度のまとまった時間とすることで、リフレッシュして保育に取り組むことを促進した。ただし、教材研究や会議の時間は少なくなっているのもその埋め合わせをすることが課題となっている。

《一定の成果が上がっているが、これからも一体感のある職場を目指さなければならない。》

◎

・保育参観を再開した。

・「夜まで保育」を実施した。宿泊をしないので「一人で泊まれた」という自信にはつながらないが普段は園の中では生活しない時間を過ごすことで多少の成果はあったと思われる。

キャンプファイヤーから保護者が参観できるようにしたことでクラス全員の親子の一体感を持つことができた。

・観光バスを使った親子旅行は実施せず、現地集合の親子園外保育を年長「スカイランドパーク」・年中「覚満淵散策」はな組「るなばあく」で行った。

バス代がかからず近場で親子友達と楽しめ、保護者の方の反応は概ね好評だった。←アンケート参照

・音楽リズム発表会は、会場では歌唱せず園で録画したものを会場で上映した。

保護者の方の反応はアンケートのとおり。

3. 具体的目標・計画

① 教育課程・指導について

- ・季節やその時期の環境・伝統的行事に配慮しながら保育を行う。

《実際に見る・聴く・触る等の体験を大切に。季節を感じたものを壁面製作等の製作物で表現した。端午の節句（こいのぼり製作）・七夕・仏教的行事を通して心の涵養に努めた。また、それぞれの行事の歌もまた成果をあげることとなった。》

- ・食育については、野菜等の栽培に力を入れた。

《栽培植物：サツマイモ・稲・キュウリ・ミニトマト・インゲン・サヤエンドウ 栽培植物は、生または調理して園児が食した。園庭で栽培された野菜ということからか、食べられなかった野菜を食べられるようになった事例が散見された。身近に野菜の成長を観察できることが子ども達の中に培われていることを実感した。これからも、野菜の栽培は子ども達の興味・関心持つ機会に富みさらなる試みを続けていくことが必要。》

- ・園と園児とその保護者の信頼関係構築に心掛ける。

《連絡帳やおたよりあるいは送迎時に保護者との信頼関係を築くことを目指しているが十分とはいかない。限られた時間でどのように成果を出すかが課題》

- ・月毎に目標を定め、その時期ならではの留意点を明確にして保育を行うよう心がける。

《月案は学年主任が作成する。週2回（月・木）の学年主任会議をしているが、学年ごとの連携を十分に取れない状況なのでさらに改善していくことが必要。》

- ・年長児には小学校への接続を考慮する。

《今年度は、原小学校の校長先生の配慮で学校公開日の公開前の時間に参観を設定していただいた。まだまだ、新型コロナウイルス感染症感染対策をしていた時期の前にはなっていない。幼小連携はお互いに忙しくてままならない現状を補完する活動を考えなければならない。》

- ・就学サポートシートの活用を積極的に促す。

《すすんで利用とする保護者の問い合わせがあった。これからもスムーズな小学校への進学につながる手助けをしていくことが必要》

・全日本私立幼稚園連合会関東地区会教員研修群馬大会で「乳児保育」の発表を齋藤睦子主幹保育教諭が行った。このことが乳児保育を考える上で大きく役立っている。

② 保健管理について

- ・看護師（常勤1名、パート・6時間×週4日）を配置した。

- ・幼児に対する日常の健康観察

登園した際に視診を行う。

具合の悪そうな場合は検温及び、注意深く様子を観察し必要に応じて保護者に連絡をとるように心がけている。

2歳児は午前のおやつと昼寝後に検温。0.1歳児は登園時と昼食後・昼寝後。

毎日、登園時に健康観察表（朝の体温と健康状態等記入）を必ず提出してもらう。

- ・環境検査の実施（採光・水道水・換気等を薬剤師に依頼）
- ・感染症対策（机・椅子・玩具・戸等の除菌）玩具除菌には、専用器具を購入した。
- ・手指消毒液と除菌用薬剤・使い捨てビニール手袋・嘔吐物処理キット・子ども用マスク等常備。

- ・ 6月に職員健康診断実施。
- ・ 就園前健診、年2回の園児健康診断、年1回の歯科検診を実施。

③ 安全管理について

- ・ 園庭遊具の安全点検並びに修繕等 《毎月視認と触診で実施》
- ・ 防犯カメラ・110番通報装置の点検整備 《業者が年2回実施・直近では12月実施》
- ・ 毎月、火災総合訓練（避難・通報・消火）と年2回の地震避難訓練実施
- ・ 安全マニュアルの作成をする。

④ 特別支援教育について

学年を中心に支援を要する子どもへの対応について協議をし、園全体で協力体制を築くことで、子どもの成長発達の援助を行う。

特に配慮を要する園児には担当保育教諭を配置した。

《関係する研修の受講や専門の機関からの指導を得ることでさらなる成果を上げることが必要・前橋保健センターから専門の方に来ていただいた。また、通園している他の施設との話し合いに積極的に協力している》

⑤ 組織運営について

職員への就業規則の周知（常時職員室に配備）

職員への情報の取り扱い方針の周知（年度当初）

個人情報取り扱い、守秘義務について周知した。

《時間の制約から十分にできていない部分があるので努力が必要》

⑥ 研修（資質向上の取り組み）について

新採研・保育士等キャリアアップ研修・（一社）群馬県私立幼稚園・認定こども園協会主催各種研修への積極的参加

《できる限り研修を受けさせたいが、代替え職員を配置できないので十分とは言えない状況にある。ただし、WEB研修等の利用である程度は補えた。》

⑦ 情報提供について

・ 園のしおり（入園時）

・ 園だより（毎月）

・ 3種類のニュース（基本的に毎月）

ほけんニュース・食育に関するニュース・身の回りのものに興味を持つためのニュース

・ 全日私幼連PTAしんぶん（毎月）

・ 携帯メール連絡網（オクレンジャー）による情報提供

《感染症情報その他紙媒体よりもメールによる情報提供が適しているものをタイムリーに配信している。》

⑧ 保護者・住民との連携

・ PTAとの連携による行事運営

《PTA役員の方のお蔭で大きな行事が実施できている。貴重な時間を割いて協力していただいているので、それ以上のものを経験してもらえるように努めているがどうだろうか、と思っている。》

・ さつまいも栽培による地域連携事業実施

《子ども達にとって、職員・PTA役員・地域の方が手伝っていることで、世の中はみんなが繋がりを
持って成り立っていることを感じられたら、と思う。》

・保護者による読み聞かせ会（ボランティア活動）については、保護者のボランティアが少なかったが
充実した会になっている。

《園児は毎月楽しみにしている。保護者の方もやりがいをもてる活動である。》

⑨ 子育て支援

・預かり保育と延長保育

《預かり保育は1号認定子どもが少なくなっているため利用者が少ない・延長保育は1日1人程
度の利用》

・親子の集い ミニポケット

《例年前期は5回、後期は10月から毎月一回実施していたが、月に2回程行い、毎回8～12組
程の親子参加者がある。》

・子育て相談

《子育て相談のためのスキルを磨き十分な成果をあげるように努めることが必要》

⑩ 教育環境整備

遊戯室・乳児棟を新築し本格使用ができるようになった。広い遊戯室は未満児の運動会にも使えた。

また、

【全体を通しての自己評価】

・今年度も業務量に対して職員の数が足らなかったがチームワークよく保育ができた。とはいえ、保育内
容の検討は十分とは言えない。「幼稚園と小学校の架け橋」を考慮して教育課程の見直しを図らなければ
ならないが全ての子どもが「健康で幸福な状態。良好な状態。満足の行く状態。」となることを目指す必
要がある。

・不適切な保育が相変わらず全国では散発的に行われていると報道されている。本園においても不適切
な保育については「人権擁護のためのセルフチェックリスト」で自分たちの保育についての確認を行っ
た。

・行事等についての保護者のからの評価は概ね肯定的な内容だったことからうかがえる。また、日頃の保
育についても連絡帳でそれなりの評価がなされている。しかしながら、さらなる改善が必要とはいえ、一
日の業務を十分に行うだけの余裕がないことから職員の増員が必要であるが予算の範囲内で行うしかな
いところが難しい。

・多忙を極める中ではあるが、今後も園内外の物的人的環境を生かして、引き続き教育・保育を行う学校
法人が設置する幼保連携型認定こども園としての本分を見失わず、職員全員が一致団結して向上心を持
って園児のために邁進するように心がけたい。

☆施設関係者評価委員会

・令和6年1月26日（金） 午後4時から ポケット幼稚園 つぼみ組保育室

・評価委員

保護者 4人（1人欠席） 他 民生委員・校長・幼稚園教諭養成校講師（欠席）

◎会議次第

- (1) 自己評価の説明（ポケット幼稚園園長・主幹保育教諭2名）
- (2) 質疑応答

【評価委員からの主な意見】

- 連絡帳について記載があると褒めてあげられて良いけれど親も書く内容がなくなって負担になっている。送迎の時に一言話せれば大丈夫。
- 行事ごとの写真プリントが欲しい。
- 3歳以上児の発表会で未満児の発表会の様子を昨年度のように見せて欲しかった。
- 保護者とは直接会話が一番。次に連絡帳。メールでのやりとりは後で連絡できるのでよい。
- 重点的に取り組むことができている。親子園外保育の持ち方を保護者の意見を取り入れて実施しているのが良い。3才以上児が2クラスから1クラスになったことが質の向上につながっている。
- 看護師が園にいるのは良い方向に向っている。保護者の意見や気持ちを聞きながら園を運営している感じがする。
- ICT化はダメになることもある。
- 不満は何もありません。